

山形森林管理署の沿革

明治25年（1892）	山形小林区署・楯岡小林区署・朝日小林区署（明治31年に寒河江小林区署に改称）を設置
大正13年（1924）	山形小林区署を山形営林署に、寒河江小林区署を寒河江営林署に、楯岡小林区署を楯岡営林署にそれぞれ改称
昭和22年（1947）	林政統一により国有林のすべてを農林省が所管 企業的運営による独立採算方式の特別会計制度を採用
昭和31年（1956）	楯岡営林署を村山営林署に改称
昭和63年（1988）	寒河江営林署を山形営林署に統合し寒河江市に新築移転。蔵王森林センターを設置
平成11年（1999）	村山営林署を山形営林署に統合し山形森林管理署に改称。村山事務所を設置
平成13年（2001）	村山事務所及び蔵王森林センターを山形森林管理署に統合
平成25年（2013）	組織・事業のすべてを一般会計へ移行

組織体制

【本署】（寒河江市元町）
署長
次長
地域林政調整官
森林技術指導官
森林情報管理官
総括事務管理官
（総務グループ）
総括森林整備官
（業務グループ）
総括治山技術官
（治山グループ）

【森林事務所】
山形（山形市小白川）
上山（上山市永野）
中村（西川町大井沢）
幸生（寒河江市幸生）
村山（村山市楯岡笛田）
延沢（尾花沢市延沢）

林野庁東北森林管理局 山形森林管理署の概要

令和8年度
（2026年度）

管内図



【基本データ（国有林の地域別森林計画）】

国有林の面積 77,223 ha
管内の森林面積 172,597 ha
国有林の割合 45%

国有林の蓄積 978万6千m³
針葉樹 356万6千m³
広葉樹 621万9千m³

【主な事業量（令和8年度計画）】

<素材（丸太）生産量> 2万8千m³
<立木販売（収穫量）> 19万2千m³
<造林> 植付：46ha 下刈：113ha
<林道> 改良：97m 災害復旧：135m
<治山> 山腹工、谷止工等



林野庁 東北森林管理局
山形森林管理署

〒991-0053
山形県寒河江市元町1-17-2
電話 0237(86)3161



昭和63年（1988）竣工。木造2階建て。庁舎正面玄関に県内産スギ磨き丸太を配しています。

東北森林管理局広報誌
「みどりの東北」スマホ版アクセスQRコード





木材の安定供給



広葉樹資源の活用



作業現場の安全確認
(労働基準監督署
合同パトロール)



巻き立てられた木材



地上レーザスキャナ
による収穫調査



筋刈の実施箇所



林道改良工事
(進捗状況の確認)



伐って植える循環の促進
(需要地への輸送を待つ素材)

山形森林管理署は山形県村山地域の国有林約77千haを管理しており、北側に「葉山」、東側は「御所山」「熊野岳」などの奥羽山脈と接し、西側は「月山」「大朝日岳」などに囲まれた一帯で、中央部を「最上川」が貫流しています。

また、「磐梯朝日国立公園」「蔵王国定公園」「御所山県立自然公園」や、「奥羽山脈緑の回廊」「鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊」が指定されています。蔵王地域ではオオシラビソ（別名アオモリトドマツ）の枯損が発生しており、森林総合研究所東北支所や山形県森林研究研修センター等の専門機関等と連携・協力のもと、森林再生に向けた取組を行っています。



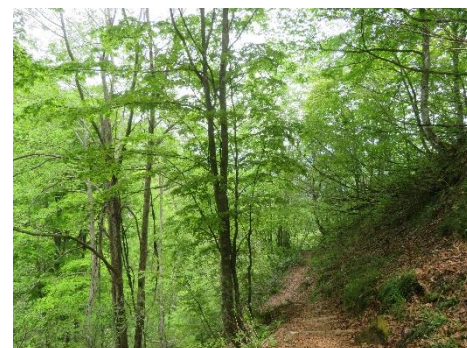
地域を対象とした
林業技術に関する現地検討会



安全・安心な暮らし を守る治山事業



木製型枠を使用した谷止工



上段左から月山、蔵王坊平、神通峡、下段左から白鷹山、葉山、山刀伐



森林とのふれあい 地域との連携



地元小中高生によるオオシラビソの
再生に向けた自生稚樹の移植体験



地すべりボーリング調査



千歳山のリングネット柵工



治山技術の研修活動



村山地域民有林・国有林
連携推進会議



村山地域民有林・国有林
連携推進会議



40年続く村山ふるさと教育の森
植樹体験